



# 第六十三回東北連合小学校長会研究協議会 山形大会 山形市にて開催

# 会報

第 317 号

岩手県小学校長会  
代表 佐藤 淳  
事務局 TEL019(623)8955  
盛岡市紺屋町2の9  
盛岡市勤労福祉会館2F  
印刷 富士屋印刷所

第六十三回東北連合小学校長会研究協議会山形大会が、

七月六日(木)・七日(金)の二日間、山形県山形市のやまぎん県民ホールを主会場に市内三会場で行われた。東北各県から九百六十名を超える小学校長が参加、岩手県からは百四十二名が参加した。

開会行事で、村上ゆかり東北連合小学校長会会長は、コロナ禍における学校経営と現在の教育諸課題、大会主題の趣旨について触れ、昨年度の岩手大会の成果を引き継ぎ、「人間力に満ちあふれた社会や地域の持続的発展に貢献できる子どもを育てる学校経営



渡辺博明氏による記念講演

の推進」を副主題として位置付けたと述べた。また、「東北は一つ」の思いのもとで得られた成果を各県の日々の学校経営に生かすとともに、全国へ発信できる大会としたいと語った。

開会行事の後には、「ものづくり、ことづくり」そして「新型コロナウイルスでの挑戦」と題して、オリエンタルカーベトナム株式会社代表取締役社長の渡辺博明氏による記念講演が行われた。受け継がれてきた不易なことを大切にしながら、不変なことを大切にしながら、とともに、時流に即した変革を行い、新しい価値を見出し、挑戦する姿勢に、これからの学校経営に向けた貴重な示

唆をいただいた。

二日目は、十のテーマに分かれて分科会が行われた。実践を踏まえた研究発表をもとに、熱心な研究協議が行われた。参加した会員より報告をいただいたので紹介する。

## 分科会報告

### 第一分科会(経営・組織・運営)

目指す学校づくりと組織・運営の活性化

北上市立更木小学校

小松 由香里

視点一「学校の課題を明確にした学校経営の推進」については、「学校課題を明確にした経営ビジョンの策定の在り方」具現化するための校長の果たすべき役割と指導性」と題し、本地区(和賀地区)校長会代表が発表した。組織マネジメント(目標の共有、役割の明確化、連携・協働)を大切にし、組織が一体となった学校経営を推進することにより教職員の参画意識

が醸成されるということ成果として挙げていた。質疑では、本県の取組「まなびフェースト」について話題となった。

視点二「教職員の参画意識を高揚する活力ある組織・運営」については、「校長の経営マネジメント力を支える米沢市小学校長会の取組」人材育成と活力ある学校づくりのために」と題し、山形県米沢市校長会代表が発表した。

校長会としての人材育成の実践を通して、教職員個々の立場や能力に応じた校長の働きかけが活力ある学校づくりにおいて重要であるということ成果として挙げていた。協議では、他県における人材育成に向けた実効性ある研修が興味深かった。

全体を通して、校長は、学校や教職員についてよく把握し、自校の状況に応じた組織マネジメントと適切な働きかけをすることが重要であると感した。

**第二分科会(評価・改善)**

教育活動の活性化を図る学校  
評価と学校運営の改善

一戸町立鳥海小学校

吉 田 幹 伸

視点一では、青森県下北小学校長会より「教育の質の向上(学校課題の解決)を目指した、経営方針に基づく学校評価の在り方」についての実践が発表された。学校評価を評価項目、教育課程への反映のさせ方、保護者や地域への公表の仕方等から見直し、教育活動の活性化に取り組んだ事例が報告された。保護者や地域の方による学校評価の妥当性を向上させるため、学校における各々の教育活動の目的、取組後の成果を丁寧発信していくことが大切であることを確認できた。また、限られた時間と人員をどの学校課題に集約させ改善を図っていくかについて実践事例から学び、協議を深めることができた。

める学校評価・教職員評価の在り方」についての実践が発表された。町全体で取り組んでいる「保小中高一貫教育」と「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」の事例が報告された。特色ある教育活動として、国際理解教育、情報教育、キャリア教育等に力を入れており、校種を越えた連携の在り方、コミュニティ・スクールの学校評価を活用した教育課程の編成による高校卒業までを見据えた人間力の育成の在り方について学ぶことができた。また、コーディネーターとの連携・協働の在り方について交流する機会となり有意義な協議となった。

**第三分科会(知性・創造性)**

知性・創造性を育む教育課程

釜石市立小佐野小学校

千 田 有 美

視点一では、「カリキュラム・マネジメントにおける校長のかかわり」について、秋田市校長会の実践発表

があった。「主体性」「系統性」「コーディネーター」をポイントとし、「主体性」の部分は、子どもたち自身の話し合いを重視していた。その思いの実現のため、外部も含めた関係者間でねらいを共有し、教育課程に落とし込むものであった。目指す児童像を明確にし、ブランドデザインを共有しながら、コロナ禍明けの教育課程を吟味していく必要がある。人・もの・ことの橋渡しの役目を校長は担っていることが確認された。

ことや互いに評価し合う教職員集団づくり等に導く校長の在り方を学ぶことができた。他県の実態や各校の実践を伺い、子ども・教職員の思いを引き出し、その実現に向けた教育課程の編成のために校長として何をするべきか考える機会となった。

**第四分科会(豊かな人間性)**

豊かな人間関係を育む教育課程

一関市立南小学校

山 村 淳

第四分科会では、八十九名の参加者が十五グループに分かれて協議を行った。

視点一「他と共に、よりよく生きるための人権感覚の育成」について、「共に生きる心を育む教育課程と校長の在り方」人権感覚の育成を通して」と題して、宮城県大和町立吉田小学校の佐藤友昭校長が発表した。この発表では、校長の取組・役割として、四点挙げられた。職員会議等での「職員への働きかけ」、全校朝会等での「児童

への発信」、「教育活動の焦点化」、「外部との連携」の重要性・有用性である。

視点二「豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善」について、「豊かな人間性を育む教育課程の推進」情報社会に適応できる力を育む教育課程編成のための校長の役割」と題して、山形県山形市立第八小学校の丸山一裕校長が発表した。この発表では、成果として三点確認された。インターネットやタブレット等についてアンケート調査を行ったことにより、授業改善・推進へつながったこと、ICTを効果的に活用した授業を行ったことにより、人と人のつながりが育まれていること、教育課程の編成を通して、「人とのつながり」「ICTの活用」をキーワードに校長の関わり方を再考することができたことである。

発表後には、グループ協議が行われた。各県の実践や悩み等が交流され、校長としての役割の重さを実感した。

### 第五分科会(健やかな体)

未来に夢を描き、生きる力を育てる健康教育・環境教育の推進

田野畑村立田野畑小学校

山下 一幸

視点一(健康教育)では、福島県両沼地区による「未来に夢を描き生きる力を育てる健康教育・環境教育と校長の在り方」の実践が発表された。多くのグループで話題になったのが、福島県全体で取り進む「自分手帳」である。

これは、子ども自身が健康・体力・食生活の状況を高校までの十二年間に渡って記録するもので、自己マネジメント力の育成を中心に、P・D・C・A(計画・実施・評価・改善)サイクルの確立、家庭や校種間連携の重要性などについて活発に意見が交わされた。

視点二(環境教育)では、山形県西村山地区による「学校や地域の特性を生かし、主体的に取り組むための環境教育の推進について」の実践が発表された。東北各地の豊かな自然環境を素材にした体験活動に加えて、SDGsの概念をコンセプトに、地域・企業・行政・関係団体を巻き込んだ新たな学びを創り出し、子ども自らが生活や古里に対する意識の高まりを目指していくことがこれからの環境教育に必要なことが確認された。

発表・協議を通し、校長として、学校と周囲をつなぐコーディネーターの役割、子どもたちの学びを発信する役割、そして、取組を価値付けながら指導する教員を後押ししていく役割について再認識することができた。

した。人的資源が限られていることや、教職員構成が二極化する中での人材育成の方策として、市の火山防災カリキュラムを活用した防災学習を各校が学校運営の重点として位置付け、近隣校と連携する事例や教員等育成指標を活用して、教職員の特性を生かした校内体制づくりについて報告された。

視点二「将来への夢や展望、参画意識をもたせる研修の推進と職員の育成」では、山形県飽海地区校長会が「ミドルリーダーの計画的な育成を図る校長の役割」について、ミドルリーダーに焦点を当てた「対話」「立場」「研修」という三つの視点での育成事例を報告した。人事評価面談の活用や、適材適所での若手の起用、OJLが機能する校長会主催の学校運営講座などについて紹介された。

協議では、近隣校が連携し研修を深める体制を作り、教職員の意欲を高めていくことの有効性や教職員のよさや強みを経営に生かすとともに、

な自然環境を素材にした体験活動に加えて、SDGsの概念をコンセプトに、地域・企業・行政・関係団体を巻き込んだ新たな学びを創り出し、子ども自らが生活や古里に対する意識の高まりを目指していくことがこれからの環境教育に必要なことが確認された。

### 第六分科会(研究・研修)

学校の教育力を高める研究・研修

研究

八幡平市立松野小学校

千葉 理 恵

視点一「実践的な指導力を高める校内研修体制の推進」では、八幡平市校長会が、「学校の教育力を高める校長としての役割」について発表

した。人的資源が限られていることや、教職員構成が二極化する中での人材育成の方策として、市の火山防災カリキュラムを活用した防災学習を各校が学校運営の重点として位置付け、近隣校と連携する事例や教員等育成指標を活用して、教職員の特性を生かした校内体制づくりについて報告された。

視点二「将来への夢や展望、参画意識をもたせる研修の推進と職員の育成」では、山形県飽海地区校長会が「ミドルリーダーの計画的な育成を図る校長の役割」について、ミドルリーダーに焦点を当てた「対話」「立場」「研修」という三つの視点での育成事例を報告した。人事評価面談の活用や、適材適所での若手の起用、OJLが機能する校長会主催の学校運営講座などについて紹介された。

協議では、近隣校が連携し研修を深める体制を作り、教職員の意欲を高めていくことの有効性や教職員のよさや強みを経営に生かすとともに、

した。人的資源が限られていることや、教職員構成が二極化する中での人材育成の方策として、市の火山防災カリキュラムを活用した防災学習を各校が学校運営の重点として位置付け、近隣校と連携する事例や教員等育成指標を活用して、教職員の特性を生かした校内体制づくりについて報告された。

### 第七分科会(学校安全)

命を守る安全教育・防災教育の推進

盛岡市立好摩小学校

梅野 展 和

視点一では、青森県西目屋村立西目屋小学校の自ら判断し行動できる児童を育成するための実践が発表された。発表では、中学校区での引き渡し訓練や、災害に対応した設備の理解と、災害時の児童の



八幡平市校長会による発表

必要であると改めて感じた。教職員をつなぎ支える役割などについて意見が出された。各県の校長と協議交流する中で、学校経営の充実にむけ、校長も常に学び続けることが必要であると改めて感じた。

行動に向けた学びの場の設定を行っていた。村の防災課と連携し、高学年の児童に避難場所や備蓄物資を実際に見せたり、村の防災についての学習をしたりすることで、児童は自分たちが守られているという意識と、高学年として下学年を守らなければならないという思いが芽生え、地域における自分の役割を考えることができたという成果があった。

視点二では、山形県田川地区の実践で、①学校課題解決のための避難訓練の工夫、②自分事となる防災学習、防災教育計画づくりについて発表がなされた。この中で、避難訓練のマンネリ化を防ぐために毎回想定を変える、防災に係る校長講話を児童と教職員に向けたものとするなどにより理解が深まるといった校長の関わりが出されていた。防災学習、防災教育計画づくりでは、家庭や地域、行政、専門家等と連携し、防災学習を進めており、防災教育計画の見直しに当たっても、一緒に

進めることで、自分事としてとらえることができるような仕組みを作っていた。

### 第八分科会(危機対応)

様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

洋野町立帯島小学校

馬場 宣彦

視点一「いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり」では、秋田県校長会から「危機管理意識の向上」「情報共有と組織づくり」「カリキュラム・マネジメント」の三つの内容での発表があった。

いじめに関する研修会を教職員の指導力向上の目的に合わせ意図的に設定したこと、情報共有のための会議は、短時間でコンパクトに行っていることがとても参考になった。また、児童主体で、児童が関わり合う教育活動を紹介され、設定していく必要性も感じた。

視点二「教職員の高い危機意識並びに対応能力の育成と

未然防止に向けた組織体制づくり」では、山形県校長会から校長の危機意識についてのアンケート結果が示された。その中で「自校の教職員がもっと高めなければならぬ危機意識」の第一位になっていたのが「保護者対応」であった。保護者への初期対応

でのつまずきが、長期化・深刻化へと結びついていることが伺えた。グループ協議では、保護者対応に関わる若手教員の支援の在り方、スクールロイヤーの配置の有無と活用の在り方、マスコミ対応の在り方等、他県の方々からの情報をいただき、とても有意義なものとなった。

### 第九分科会(自立と社会性)

自立と社会参加を図る教育の推進

奥州市立姉体小学校

松本 圭

視点一では、宮城県大河原地区小学校長会が「子どもたちに自立を促し、社会参加を

図る特別支援を推進するための校長の役割」について実践発表を行った。支援ファイル活用による支援内容累積、専門家の訪問、障がい理解など、市や各校の取組が報告された。

自己肯定感を高めるため、教員の専門性、保護者の理解と啓発及び関係機関との連携が必要であることが明らかとなった。

視点二では、山形県最上地域小学校長会が「希望や目標をもって生きる意欲を育むキャリア教育の推進」について実践発表を行った。小中学校九年間を見据えたキャリア教育の推進や家庭・地域・関係機関と連携した取組が報告された。

つきたい力と活動を明確にするため、育てたい力、日常的なキャリア教育、地域共育カリキュラムとの関連等が盛り込まれた計画が示された。中でも、児童が夢をもち、やりたい自分に近づけるよう、活動を意識化し、活動を充実させることが肝要だと感じ

### 第十分科会(社会との連携・協働)

家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進

大船渡市立大船渡北小学校

金野 晋

た。「校長の役割は、様々な〇〇教育を整理・焦点化・重点化して道しるべを示し、教職員と共通認識をもって推進すること。子どもは地域の宝であり、学校や地域中で育てていくこと。」と発表班にまとめていただいた。各県の特

のであった。校長の働きかけとして、教職員、保護者、地域への周知と理解、持続可能な運営への実施計画の立案、教育活動を網羅する部会の設置などを行ったことから、子どもと地域がより身近な関係となったとの報告があった。

視点二「幼保・小・中等との連携と円滑な接続のための組織的な取組の推進」では、山形県東村山地区小学校長会の発表が行われた。異校種との連携を効果的に行うために、校長として果たすべき役割を、学校経営力、人材育成力、連携・協働調整の三つから捉え、中学校区ごとに重視したいことを共有して実施したものであった。九年間を見通した小中連携や英語教育活動推進のために小中・小中連携を図り、円滑な接続に結びつけた実践などの報告があった。

グループ協議では、他県の状況や他校の特色ある実践を知ることができ、地域や異校種との連携を進める上で大きな示唆を得ることができた。

# 地区校長会研究交流

## 新しい時代を拓き、心豊かに生きる 子の育成を目指す活力ある学校づく りの在り方

### 紫波地区校長会

#### 一 はじめに

紫波地区校長会は、紫波町と矢巾町の二町で構成されている。

#### 〔紫波町〕

小学校五校、中学校三校のうち、紫波東小学校と紫波第二中学校は紫波東学園（施設一体型）、西の杜小学校と紫波第三中学校は、紫波西学園（施設隣接型）の小中一貫校。

#### 〔矢巾町〕

小学校四校、中学校二校。紫波地区は、小学校九校、中学校五校、合わせて十四校となる。小中一貫校が二学園あり、小学校と中学校が綿密に連携を取りながら、研究の推進や情報交換などを実施している。

#### 二 研修計画の概要

今年度の紫波地区校長会の研修は次のような方針で進め

#### ている。

- ・ 国、岩手県及び紫波町・矢巾町の教育課題を認識し、学習指導要領の趣旨や実現に向け、学校経営理念を明確にし、学校教育の充実と発展に努める。
- ・ 会員相互の研修や情報交換・連携・協力を推進しながら、校長としての識見・力量を高める。
- ・ 教育諸条件の整備・充実・改善に資するため、関係教育機関・諸団体等との連携に努める。
- ・ 研究に当たっては、矢巾、紫波の二ブロックに分かれ、各々研究を進める。
- ・ 研究について、紫波郡校長会研究大会・情報交換会で発表し、意見交流をする。
- ・ 学校経営マネジメント研究会、全体研修会、先進校視察などを通して、研修の充

実を図る。

#### 三 研究の構成と概要

各ブロック、年六回程度集まり、情報を交流し、実践的な研究をしている。各々の研究主題は次のようになっている。

#### ① 紫波ブロック

日詰小・赤石小・古館小・西の杜小・紫波東小の五校で構成されている。

【研究領域】 危機管理

【分科会】 学校安全

【研究課題】 命を守る安全教育・防災教育の推進

【視 点】 自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進

【研究テーマ】 自らの命を守る安全教育・防災教育の推進と校長の在り方、教職員の共通理解と家庭・地域の連携を通して

これは、令和六年度県大会二戸大会の発表に向けた一年次の研究となる。

研究に先駆け、校長としての知識や心構えを得るため

に、七月に、岩手県立図書館長 森本晋也氏をお招きし、「生きる力を育む安全教育」学校安全の実効性を高めるために」と題し、ご講義をいただいた。深い知見と体験から、今、学校で必要な安全教育について具体的な示唆や校長の責任と役割についてお話をいただいた。

#### ② 矢巾ブロック

徳田小・不動小・煙山小・矢巾東小の四校で構成されている。

【研究領域】 指導・育成

【分科会】 研究・研修

【研究課題】 学校の教育力を高める研究・研修

【視 点】 実践的な指導力を高める校内研修体制の推進

【研究テーマ】 校内研修の工夫・改善による教職員の人材育成、教員の資質・能力育成のための校長の役割

これは、令和八年度県大会和賀大会の発表に向けた一年次研究となる。今年度は、各校の実態調査を行う。

#### 四 終わりに

それぞれの研究に加え、喫緊の課題であるICT研修や必要に応じて、全体研修を設定し、校長としての資質・能力の向上を図っている。

「予測不可能で、多様な困難を抱える時代を生き抜く子には、どのような資質・能力を身に付ける必要があるのか、その力を発揮できるためにはどのような力を付ける必要があるか」今、教育は、大きな改革を求められている。子どもが主役となり、自ら考え、判断し、行動できる力を育むために、校長も柔軟な思考力と、先人からの知見を踏まえた上での画一ではない広い視野からの判断力が求められる。さらに、地域に根ざし、地域に信頼され、地域と共に協働できる折衝力が必要とされている。校長同士が、意見や情報を交流し、アイデアを出し合い、研究を進めることは、互いの価値観や視野を広げ、豊かな未来社会を創るため、日本人を育てるための鍵を得ることにつながっていると思う。

（紫波町立日詰小学校

森 和佳子）

新たな教育課題への対応

働き方改革の推進を  
目指した取組

～各組織との連携を図りながら～

花巻地区

一 はじめに  
花巻市では、国や県の動向を踏まえ、平成二十七年年度に校長、副校長及び職員団体の代表、教育委員会を構成員とする「花巻市教育委員会教職員多忙化解消対策会議」を立ち上げた。業務改善に向けた具体的な取組を検討・提案し、各学校においてその実践に取り組むことで、「児童生徒と向き合う時間の確保」と「教職員のワーク・ライフ・バランスの実現」を目指すものである。

年二回の会議を通して現状の把握と改善に努めながら、毎年度初めに「学校における多忙化解消プログラム」を提示し、取組を進めている。本稿ではその具体的な内容と、進捗状況及び今後の課題についてお伝えする。

二 重点事項十項目

- ① 目標時間を定めた「時間外在校時間」の縮減
- ② 業務の平準化に向けた校務分掌の見直し
- ③ 長時間労働者に対する学校長面談の実施
- ④ 部活動休養日及び活動時間の徹底
- ⑤ 最終退勤時刻の設定
- ⑥ 定時退庁日の設定
- ⑦ 時間外電話・来校相談時間の適正化
- ⑧ 長期休業期間中の学校閉庁日の実施
- ⑨ 小学校高学年の教科担任制の導入
- ⑩ 学校安全衛生会議の実施

③④⑧の三項目は達成率が一〇〇%であるが、その他は六〇〜九〇%であり、経年で改善されているとも言えない部分がある。基本的な内容であることから、早期に全項目クリアする意識の改善が望まれる。

また、①については、入力はともかく、集計・提出作業が副校長の負担増となつている点は大きな課題である。

三 各学校が選択的に取り組む事項

こちらは九項目あり、各学校の実情に合わせて取り組むものである。選択数に制限はない。

- ① 学校行事・カリキュラムの精選・効率化
- ② 会議の効率化
- ③ 定時退庁日の拡大
- ④ 地域人材の活用
- ⑤ 教材・各種資料のデータ共有の促進
- ⑥ 年次取得促進とそのための体制づくり
- ⑦ 登校時間の制限
- ⑧ PTA活動の工夫
- ⑨ その他

⑨の具体的な内容としては、「家庭訪問実施の見直し」「通知表所見欄の廃止」「必要に応じた面談」等が挙げられる。

四 取組を通して

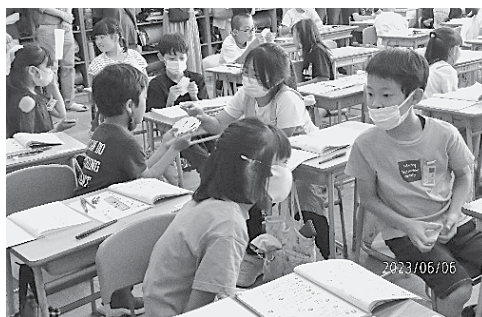
プログラムは他に「学校を支援するために教育委員会が取り組む事項」として十三項目を示している。人員配置・校務支援ソフトの導入・学校給食費の公会計化等である。継続して意見交換をしていかなければならない点である。

本年度一回目の会議は八月十七日に開催された。会議内容は主に現状の報告と確認であったが、ねらいである「具体的な取組の検討・改善」に係る要素が薄く、項目の提示は各校での取組報告という一連の流れが形骸化しているような印象が残った。これは実効性を高めていくうえで大きな問題となる。構成員相互の連携の在り方や推進の方向性を改めていく必要を強く感じている。

五 今後の課題

働き方改革の最終的な目的は、「教職員が心身の健康を

維持すること」と、それを通して「教育の質を高め、子どもたちに豊かな学びを届けること」である。



豊かな学びを子どもたちに

その目的達成のためには、今一度原点に立ち返り、それぞれの立場にある者が、それぞれ何をすべきかを、しっかりと認識し直す必要がある。そのうえで具体的な事項を一つ一つ確実に改善していくという取組を、地道に進めていきたい。

今回紹介した項目が、各地区の現状を振り返る際の参考となれば幸いである。

(花巻市立若葉小学校 本館 憲和)

### 新たな教育課題への対応

## 「そなえる」意識を育み続ける

～胸に響く学びの継続～

### 遠野地区（附馬牛小の実践から）

箇所が地域でもかなり見受けられる。また昨今の豪雨の際には河川が増水し、猿ヶ石川が荒れ狂う様子を見ることも多い。

#### 二 「そなえる」意識を育む

本校の所在地は土石流危険エリア・急傾斜危険エリアに指定されている。さらに、危険エリア内にある児童の家も多い。

このことから豪雨災害時における避難行動、日頃の備えを児童に身に付けさせる必要がある。また、いっどこで地震に遭遇しても身の安全を図れるように学ぶことは、震災の記憶を風化させないこともつながる。身に危険が迫る際にいかに行動するかのイメージを掴む学習の実践を紹介したい。

#### 三 身近な土砂災害対策

一学期末に、消防署員を講師に、地域のハザードマップを用いた防災学習を行った。自分の家の位置にシールを貼り、どんな災害が想定されているか、どこに避難したら良いか、何を持って避難するかなどを同じ地区の子どもたち

同士で考えて意見交換することができた。



ハザードマップを用いた防災学習

#### 四 合同避難訓練での体験

毎年、隣接する保育園と地区センターとで地震と火災を想定した避難訓練を行っている。昨年度は、「防災そばっち号」による地震体験を行った。



地震体験

子どもたちは震度五強から七の揺れにはなす術もないことを実感し、大きな揺れの際に身を守る方法について身を

もって学んだ。また、煙体験による避難訓練も行った。子どもたちは消防署員から対処法を教わり、適切に行動できた。

#### 五 心を動かす

三・一集会を毎年行っている。地震への対応について最終確認するとともに、震災当時の状況を全校で学ぶ機会としている。昨年度は震災発生時に沿岸の学校に勤務していた教職員が講話を行った。

当時の地域や学校の様子、自身や家族の状況、そして苦境を互いに助け合った方々への感謝の思いなどを子どもたちに語りかけた。

言葉を噛み締めながらの語り子どもたちは真剣に聞き入っていた。津波の怖さを知るだけでなく、人の心の強さと温かさに感動したことが子どもたちの感想から伺われた。

#### 六 終わりに

体験による学びは子どもたちには大きな記憶として残る。こうした学習で大切なのは、防災について学ぶ『意義』が子どもたちの胸に落ちるこ

とである。

自分の住む地には、その地に対応した防災対策がある。また、将来どこに住み暮らそうとも、その地で想定される災害を知り、どう行動すべきかを準備することが求められる。今暮らしている地域のこのみならず、幅広く正しい防災の知識をもつことは、災害時における自身の生存確率を格段に高める。

「そなえる」意識を育むためには、日常の中でその都度子どもたちが考え行動する機会をつくる必要があると考えられる。胸に響く学びの実践を今後も工夫して続けていきたい。

（遠野市立附馬牛小学校

高橋 淳）



3.11 集会の様子

## 事務局日誌抄

- 4 月 4 日 第 1 回常任理事会 (校長会事務局)  
 14 日 第 2 回常任理事会 (校長会事務局)  
 19 日 全連小常任理事会 (東京・KKRホテル東京) 紺野前会長出席  
 20 日 第 3 回常任理事会 (校長会事務局)  
 21 日 第 61 回岩手県小学校長会総会・研修会 (盛岡市都南文化会館)  
 第 1 回理事会・第 1 回評議員会合同会議 (盛岡市都南文化会館)  
 各部担当理事・地区事務局長・専門委員合同会議 (総務部、行財政部、研修部、広報・編集部、生徒指導部)  
 (盛岡市都南公民館)
- 5 月 8 日 第 1 回調査研究委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 9 日 第 1 回生徒指導委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 12 日 第 1 回行財政対策委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 16 日 日本教育会岩手県支部第 1 回理事会 (サンセール盛岡) 佐藤会長、和田副会長出席  
 19 日 東北連小事務局会、第 1 回理事会、感謝の会 (山形市・山形国際ホテル) 紺野前会長、後藤前副会長、佐藤会長、和田副会長、前川部長、石亀書記出席  
 岩手県退職公務員連盟第 76 回定期総会 (岩手県公会堂) 飯岡部長出席  
 22 日 全連小 75 周年記念誌拡大編集委員会 (東京・KKRホテル東京) 中村部長出席  
 23 日 第 2 回調査研究委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 24 日 第 1 回広報・編集委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 25 日 全連小第 244 回理事会 (東京・KKRホテル東京) 紺野前会長、佐藤会長、前川部長出席  
 26 日 全連小第 75 回総会 (東京・ニッショーホール) 紺野前会長、佐藤会長、前川部長、本田校長 (盛岡市立厨川小)、堀切校長 (雫石町立御所小)、佐藤校長 (紫波町立西の杜小) 出席
- 6 月 2 日 全連小事務担当者連絡協議会 (東京・KKRホテル東京) 石亀書記出席  
 5 日 第 4 回常任理事会 (校長会事務局)  
 7 日 第 3 回調査研究委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 12 日 第 2 回理事会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 第 1 回東日本大震災対策特別委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 13 日 東北連小第 1 回教育課程委員会 (山形市・山形国際ホテル) 中村部長出席  
 19 日 第 1 回調査研究特別委員会・第 4 回調査研究委員会合同会議 (盛岡市勤労福祉会館)  
 30 日 東日本大震災被災地視察訪問 (宮古市立重茂小) 佐藤会長、前川部長、川村部長  
 全連小広報担当者連絡協議会 (東京・KKRホテル東京) 藤原部長出席
- 7 月 3 日 全連小健全育成委員会 (東京・全連小事務局) 飯岡部長出席  
 4 日 第 5 回調査研究委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 6 日 東北連小第 2 回理事会 (山形市・やまぎん県民ホール) 佐藤会長・和田副会長・前川部長・石亀書記出席  
 6・7 日 第 63 回東北連小研究協議会山形大会 (山形市・やまぎん県民ホール・各ホテル) 142 名参加  
 10 日 全連小人材育成委員会 (東京・全連小事務局) 川村部長出席  
 11 日 全連小被災三県校長会合同連絡会 (東京・KKRホテル東京) 和田副会長出席  
 文部科学省・全連小役員懇談会 (東京・霞山会館) 和田副会長出席  
 12 日 全連小小学校長会長連絡協議会 (東京・KKRホテル東京) 佐藤会長出席  
 14 日 第 5 回常任理事会 (校長会事務局)  
 28 日 第 2 回生徒指導委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 岩手県教育委員会へ要望訪問  
 全連小 75 周年記念誌拡大編集委員会 (東京・全連小事務局) 中村部長出席
- 8 月 18 日 第 3 回生徒指導委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 23 日 第 2 回行財政対策委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 25 日 東日本大震災被災地視察訪問 (大槌町立大槌学園) 和田副会長、飯岡部長、藤原部長  
 28 日 第 6 回常任理事会 (校長会事務局)  
 29 日 東日本大震災被災地視察訪問 (大船渡市立大船渡小学校) 佐藤会長、和田副会長、中村部長
- 9 月 1 日 岩手県教育委員会との教育懇談会 (サンセール盛岡) 常任理事出席  
 4 日 第 2 回生徒指導部担当理事、地区生徒指導担当者、生徒指導委員合同会議及び小・中学校生徒指導情報交換会 (盛岡市都南総合支所)  
 5 日 第 3 回行財政対策委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 6 日 第 6 回調査研究委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 8 日 第 2 回広報・編集委員会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 14・15 日 東京電力福島第一原発等視察研修 (福島県内) 和田副会長・藤原部長出席  
 15 日 第 3 回理事会 (盛岡市勤労福祉会館)  
 第 59 回岩手県小中学校長研究大会二戸大会打合せ会 (サンセール盛岡)  
 19 日 全連小人材育成委員会 (東京・全連小事務局) 川村部長出席  
 29 日 第 4 回生徒指導委員会 (盛岡市勤労福祉会館)

## 編集後記

七月六日・七日の二日間にわたり、第六十三回東北連合小学校長会山形大会が開催されました。東北六県の会員が集い、学び合うことにより、東北は一つという思いを一層深めるとともに、共有することができました。また、ロビーなどでの他県の会員の方々の何気ない会話の中からも、学校経営のヒントを得ることができました。参集型開催の良さは、至る所にあることを実感しました。

開催県である山形県小学校長の役員の方々から、今回の参集型による開催は、昨年度に参集型で開催した岩手大会があったからできたことであると、声をかけていただきました。コロナ禍にあって、三年ぶりに参集型で開催した岩手大会は、ゼロからの取組でした。その中でも、本県の会員の皆さんの協力により、様々な対応と工夫を行いなから開催し、東北は一つの思いを再確認することができました。

この思いは、山形県に引き継がれ、来年度の青森県にも受け継がれていくことと思います。(担当 藤原 安生)